課題番号	応募者名	事業名	評価者の主なコメント	評価者のコメントに対する回答
J2001	パナソニック電工株式会社	FRPの亜臨界水分解技術の実用化開発	本事業としての所定の目標は達成されており、早期の実用化が期待できる技術である。	実用化に向け、有価物の分離精製工程を含めた全体システムとしての実証および再生品を用いた製品での品質評価を進めます。
			事業化に向け、スケールアップの評価の考察を深化されたい。	実用規模にスケールアップした場合の設備構成や運転方法の検討を踏まえ、経済性評価の精度向上を図っていきます。
			再生無機資材の性質が原料と異なることから、回収回数の増加により、製品の物性が劣化する懸念がある。	現状では、再生無機資材の配合率は小さいため、回収回数が増加しても、影響は小さいと考えます。今後の製品品質評価の中で検証していきます。
			FRPのリサイクルシステム全体の構築が求められる。温室効果ガス排出削減に係るコベネフィットの観点等も踏まえて検討されたい。	FRPリサイクルの実現による温室効果ガス排出削減に係るコベネフィットとしては、原料製造および焼却等の廃棄に関わるCO_2排出削減だけではなく、リサイクル困難性がネックになっているFRP自動車部品の普及促進による燃費向上・CO_2排出削減が期待できます。 システム全体の構築に関して、種々のFRP製品の回収の仕組みづくりや、処理後に得られる再生品（機能性高分子、無機資材）をFRP原料や、他の高機能添加剤等に再利用する事業者との連携が必要です。上記コベネフィットの観点も加え、今後検討していきます。
			国際協力面にも期待する。特に、欧州のニーズが大きい。	欧州では、比較的、自動車部品にFRPが多用されていることから、FRPリサイクルへの関心が高く、本技術はリサイクル率向上とCO_2排出削減に貢献できると考えています。今後、欧州を中心に海外の情報を継続して入手し、技術普及による国際協力の可能性を検討していきます。